

# 彩色本となった日本の古典文学

- 東海大学付属図書館蔵 -



2005年11月1日～12月10日(日・祝日閉室)

東海大学付属図書館

11号館展示室

## ～ 最近の展示 ～

- |       |     |   |
|-------|-----|---|
| 2000年 | 5月  | 平安女流文学と絵に見る平安の世界                                |
|       | 11月 | 和紙再発見 - Japanese Paper -                        |
| 2001年 | 6月  | 500年の時を超えて 連歌師宗祇展                               |
|       | 11月 | 松前重義博士の本棚 - グルトヴィ・内村鑑三・新渡戸稲造・<br>松前重義博士の主な著作展 - |
| 2002年 | 5月  | 書物の文化史 書物探求～文字・印刷・装丁の歴史と多様性                     |
|       | 11月 | 王朝文学と音楽 - 写本によみがえる音色 -                          |
| 2003年 | 5月  | TABI 大名行列から大航海時代 - 日本と世界・旅の姿 -                  |
|       | 11月 | 劇作家 北條秀司  |
| 2004年 | 5月  | むかしのくらし   |
|       | 11月 | 北條秀司の舞台   |
| 2005年 | 4月  | 歴史書は語る ビザンツ帝国一千年の歴史と歴史書                         |
|       | 6月  | 北欧の近代文学   |

表紙：展示資料3「宇治物語絵草紙」より  
(通称“こぶとり爺さん”の一場面)

## 展示にあたって

東海大学付属図書館所蔵のなかから、「彩色本となった日本の古典文学」をテーマとして展示会を開催することになりました。

展示資料はよく知られている「竹取物語」や室町時代に成立した物語、職人歌合などに彩色をほどこし、絵入本として作られ、今日に伝わった資料を中心に展示しました。

「竹取物語」は平安時代に成立した物語ですが、展示資料は江戸時代に書写されたものです。この資料を書写した絵師は、おそらくかぐや姫が昇天する場面を想像で描いたため、今日からみると異質な表現になったのではないかと思います。

また「七十一番職人歌合」は室町時代に成立した歌合ですが、この展示資料も江戸時代に書写されたものです。この資料には142人の職人が描かれており、室町時代当時の職種をうかがい知ることが出来る貴重な資料です。江戸時代になると、本書と同類の歌合が数多く成立しましたので、それらも参考までに展示しています。

本展示会では、成立時代当時の人々の暮らし・習慣、よく知られている物語が室町時代や江戸時代にどのように表現され、描かれていたか彩色本を中心に展示しました。一人でも多くの皆様にご覧いただければ幸いです。



## 1. 十二月あそび

[製作地・製作者不明]

江戸中期写 (1700年代) 2軸 32cm

17世紀後半に成立。京の月ごとの行事を風俗絵巻に仕立てたもの。描写が大変精密で、江戸初期の京風俗がよくわかる絵巻である。

## 2. 後三年合戦絵巻

[製作地・製作者不明]

延享3年写 (1746年) 3軸 46cm

源義家が奥羽の乱を平定した、後三年の役 (1083-1087) の史実にもとづく合戦記の絵巻で室町期に成立したもの。事の起こりは陸奥六郡を領地としていた清原武則の孫真衡(さねひら)が、養子成衡(しげひら)の婚礼祝いに参上した出羽の国の一族吉彦秀武に欠礼をしたことが発端となって、真衡と秀武の武力衝突に至った。上巻は事の発端から、義家が平定のため参戦、真衡の死、寒中での戦いまで。中巻は難攻不落を誇った金沢柵の兵糧攻め。下巻は金沢柵の落城と義家の勝利を記している。この資料は戦いを生々しく描いている。

## 3. 宇治物語絵草紙

[製作地・製作者不明]

江戸中期写 (1700年代) 2軸 30cm

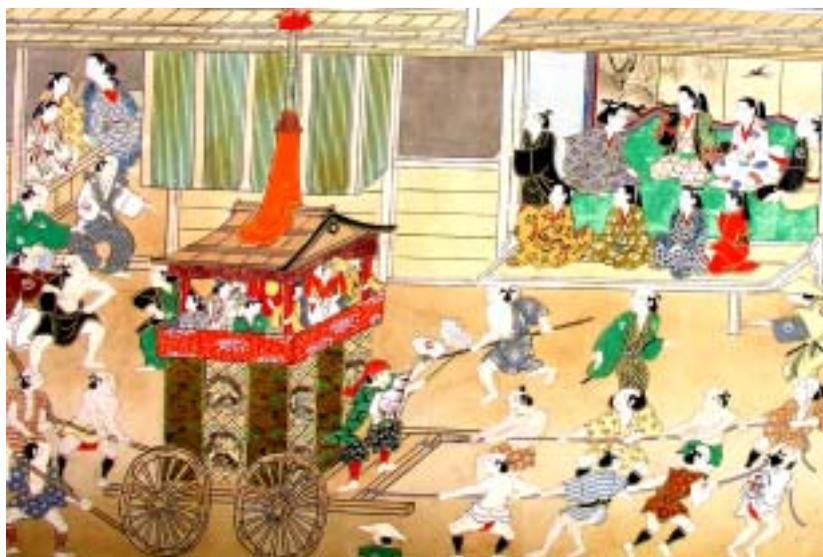
鎌倉時代に成立したと思われる宇治拾遺物語を絵草紙にしたもの。仏教説話から滑稽な笑い話や、平安朝後半に成立した貴族や官人たちの説話なども含まれている。文章は、口誦の味わいを多く残し、会話文を豊富に取り込み、説話物語の集としては典型的な資料である。

## 4. たけとり物語

[製作地・製作者不明]

元禄頃写 (1688-1704年頃) 2冊 25cm

平安時代の成立。古くは「竹取りの翁物語」「かぐや姫の物語」ともいわれた。竹取の翁が竹の中から見つけた幼児は、美しい娘に成長する。やがて5人の貴人に求婚されるが、それぞれに難題を出して避け、ついには帝の求愛をも退けて8月15日夜に月へと帰ってゆく。展示資料の巻末の識語から安藤和久之丞なる人物の筆で、書写年代は元禄頃と推定される。



資料1より



資料4より

## 5. 源氏物語絵葉書 / 梶田半古絵

[製作地・製作者不明]

[製作年不明]

2帖 18cm

日本画家、梶田半古の絵による「源氏物語」絵葉書(54枚)を折本にしたもの。製作年は明治38年頃と思われるが不明である。

## 6. 源氏五十四帖：木版画

[東京]：[内外タイムス]

昭和初期頃(1930年頃)

図版30枚 26×35cm

「源氏物語」の場面を、日本画家、海老名正夫原画により現代版画にしたもの。

## 7. すみよし物語

[製作地・製作者不明]

江戸中期写(1700年代)

3冊 24cm

典型的な継子物語。母を失った女主人公が継母から何度も結婚を妨害をされ住吉の尼のもとに身をかくしていたが、求婚者と再会して幸せな結婚生活を送るという話。成立は「源氏物語」以前の10世紀とみられるが原本は散逸、現存する資料は鎌倉時代に改作されたものというのが通説である。

## 8. 未来記

[製作地・製作者不明]

江戸初期頃写(1600年代)

1軸 32cm

室町時代に成立。親の敵を討つため、牛若は毎夜鞍馬で修行する。その姿を見た愛宕山と比良山の天狗が山伏姿となり牛若に近づく。そして牛若の未来となる源平合戦、平家滅亡の様子を演じてみせる。その後兄である頼朝との不和に留意すべきことを忠告し、天狗の兵法を伝授するという話である。展示資料は製本時に前後間違えて綴じてある。末尾欠落があり。

## 9. さごろも

[製作地・製作者不明]

元禄頃写 (1688-1704年頃) 3冊 17×27cm

「狭衣物語」から狭衣と飛鳥井姫の恋愛物語の部分の部分を独立させ、御伽草子に仕立てたもの。室町時代に成立。内容は、誘拐されようとした師(そつ)の中納言の娘、飛鳥井姫を、狭衣が救出し二人は恋愛関係になる。やがて姫は懐妊するが狭衣の乳母の子が都を離れる際、姫に求婚をし、姫の父母は承諾した。飛鳥井姫は海に身を投げるが異母兄に助けられる。その後狭衣と姫は再会し、子供とともに家にもどり栄華を極める。

## 10. 玉藻の前

[製作地・製作者不明]

元禄頃写 (1688-1704年頃) 3冊 17×24cm

室町時代前期頃に成立。鳥羽院の御所に博識で弁才巧みな女が現れ、身から光を放つことから玉藻前と呼ばれる。院に寵愛されるが、実は下野国那須野に住む800歳の狐の化身であった。折しも院は病にかかり、陰陽頭の安部安成が玉藻前が原因と見破る。姿を消した玉藻前を上総介と三浦介が命を受け、ついに狐を討ち取るという怪物退治を語る御伽草子である。



資料8より

## 11. 笠間長者鶴亀物語

[製作地・製作者不明]

寛文・延宝頃写 (1661-1681年頃) 1軸 34cm

室町時代成立と思われる。常陸国笠間郡の北山の長者の娘、かたをり姫は鶴を愛し、南山の長者の子、さく花丸は亀を愛していた。二人は契りを交し長寿を保ち、後には女筑波・男筑波の神となり、二人の愛した鶴、亀も鶴の宮・亀の宮と崇められた。

## 12. 十番切

[製作地・製作者不明]

寛文・延宝頃写 (1661-1681年頃) 2軸 31cm

「曾我物語」巻9から巻11までを題材に、室町時代に成立。建久4年(1193)5月28日夜半、曾我兄弟はついに父の仇敵、工藤祐経を討つ。直後10人と戦い、兄の祐成は仁田四郎忠に首を落とされる。弟の五郎時宗は頼朝の御所へ向かうが捕らえられ、訊問を受ける。頼朝は助命の許しを下すが、時宗は辞退して斬られる。頼朝は富士の裾野に社を建てて兄弟を祀った。



資料11より

### 13. ぶんしゃう

[製作地・製作者不明]

江戸中期頃写(1700年代) 3軸 34cm

室町時代中期頃成立。「文正草子」「しほやきぶんしょう」など、さまざまな名がある御伽草子。立身出世の祝儀物である。鹿島大明神の大宮司に仕える文太という者が、追放され塩屋になって塩を作る。それが高値で飛ぶように売れて、たちまち大長者となる。子宝に恵まれなかったが、鹿島大明神に祈ったところ二人の美しい娘を授かる。姉は二位の中將に嫁ぎ、妹は帝に召されて中宮となる。自らも大納言となって、妻と共に栄光を極め長寿を保った。

### 14. 羅生門

[製作地・製作者不明]

江戸中期頃写(1700年代) 2軸 33cm

室町時代中期頃成立。源頼光と家臣の渡辺綱の武勇伝を語る御伽草子。羅生門に住んで通行人を悩ませている鬼の話聞いた綱は、確かめに出て膝丸という刀で鬼の右腕を切り落とすが、帰途に腕を奪い返される。この後、頼光が病にかかる。大和国宇多の森に住む鬼を退治すれば治るといので、再び綱が赴き、鬼の手を髭切という刀で切り落として持ち帰る。回復した頼光のもとへ鬼が手を取り返しにくるが、頼光は髭切で打ち倒す。膝丸と髭切の2本の刀は鬼丸、鬼切と呼ばれ、源氏代々の家宝となった。



資料14より

## 15. 大江山絵詞

[製作地・製作者不明]

江戸中期頃写 (1700年代) 3軸 33cm

「酒呑(しゅてん)童子」ともいわれる。丹波の大江山に住む酒呑童子誅伐の勅命を受けた源頼光が、平井保昌らと共に山伏姿に変装して丹波の国、千丈が嶽の「鬼が城」に潜入、童子らに毒酒を飲ませて討ち果たし、誘拐された姫君たちを救出してめでたく都に帰るといふ物語。また、童子の住処を丹波の大江山から近江の伊吹山に移した伊吹山酒呑童子退治の物語(「伊吹童子」)も普及して行った。展示資料の巻末に「絵 狩野大炊助藤原元信」と書かれており、狩野派の流れをくむ人が書写したものと思われる。

## 16. 二十四孝

[製作地・製作者不明]

江戸初期頃写 (1600年代) 2軸 32cm

室町時代末期頃成立。中国の「二十四孝」にもとづく御伽草子で、内容は24人の孝行話である。各話を要約した五言絶句とそのわかりやすい説明、挿絵がある。登場するのは大舜・漢文帝など24人、挿絵は24図である。奈良絵本の他、嵯峨本・古活字本・各種の整版本が出され、広く流布していた。

## 17. 大黒舞

[製作地・製作者不明]

延宝頃写 (1673-1681年頃) 2冊 24cm

室町時代末期頃成立。「大悦物語」「大えつのすけ」ともいわれている。極貧の両親を思い、主人公である大悦のすけが清水観音に祈ったところ、大黒天と夷三郎(えびすさぶろう)という二神の恵みを受ける。大悦は富み栄え、昇殿を許され中納言の姫と結婚、三男二女をもうけ、一家は末永く繁盛を極める。立身出世、子孫繁栄を語ったためたづくしの祝儀物の御伽草子である。

## 18. 伊勢物語カルタ

[出版地・出版者不明]

江戸後期頃刊 (1800年代)

418枚 7×5cm

「伊勢物語」のカルタ。

## 19. 源氏物語カルタ

[出版地・出版者不明]

江戸後期頃刊 (1800年代)

110枚 6×5cm

「源氏物語」のカルタ。

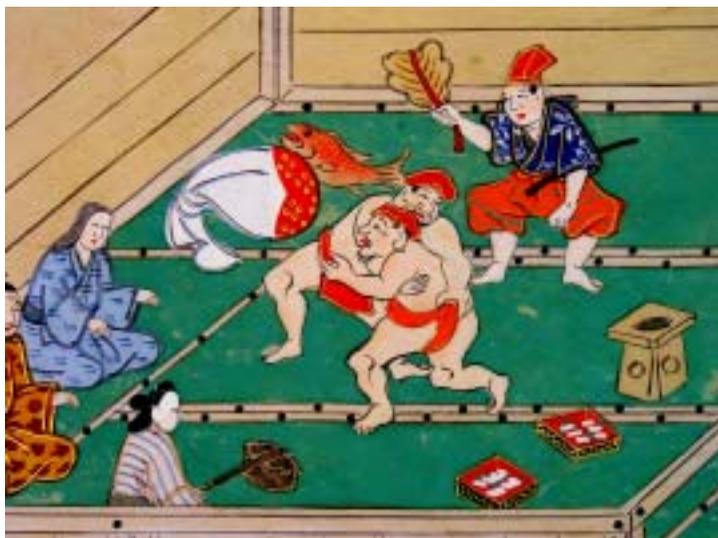
## 20. 百人一首カルタ

[製作地・製作者不明]

江戸中期頃写 (1700年代)

200枚 9×6cm

「百人一首」のカルタ。百人の歌人の秀歌を一首ずつ選出したもの。藤原定家撰の「小倉百人一首」がその最初として著名である。



資料17より

## 21. 七十一番職人歌合

[製作地・製作者不明]

江戸後期写 (1800年代) 3軸 30cm

「歌合」とは、左右に分かれてそれぞれが詠んだ歌の優劣を競うものである。「職人歌合」は貴族が自らを職人にみたてて歌を詠み、関連する職業の職人が二人一組で描かれている。

展示資料は、142の職種が登場する室町時代における最大の職人歌合である。職人を描いた絵の余白には職人同士の会話などが描かれており、当時の職人の様子を知るうえで貴重な資料となっている。成立は明応9年(1500)頃と考えられている。「職人尽歌合」ともいわれ、展示資料23の「三十二番職人歌合」とともに室町時代を代表する職人歌合である。

## 22. 職人尽歌合

[京都]：皇都書林、丸屋市兵衛他

延享元年刊 (1744年) 3冊 23cm

「七十一番職人歌合」ともいわれる。展示資料21は写本であるが、この展示資料22は延享元年(1744)に刊行された版本である。

## 23. 三十二番職人歌合

[製作地不明]

文政2年写 (1819年) 1冊 28cm

明応3年(1494)頃成立。後土御門天皇生母、嘉楽門院信子(後花園帝皇后)の七回忌法要を機に勸進聖を歌の判者として作られたと思われる。花と述懐を題材にし、序の内容なども他の歌合と多少異なっている。花と述懐それぞれ歌16番、32の職種が登場するが、より恵まれない層の庶民をとりあげている。又、職人とは一般的に農民以外を指すが、当歌合には農民も登場する。展示資料は越智茂岡による写本である。



資料21より「猿楽」「田楽」



資料21より「早歌うたい」「連歌師」

## 24. 江戸職人歌合 / 石原正明著

名古屋：永楽屋東四郎

文化頃刊（1804-1818年頃） 2冊 27cm

鎌倉時代から室町時代にかけて作られた職人歌合をまねて、江戸時代中期に成立したものであり、展示資料25、26も同類の資料である。

展示資料は国学者、本居宣長門下の石原正明によって、江戸を背景として歌25番、50の職種があげられている。

## 25. 今様職人尽歌合 / 鏡廼屋大門，五柳園一人撰

[出版地不明]：新泉園

文政8年刊（1825年） 2冊 23cm

歌の判者は、上巻が狂歌師・戯作家の俳諧歌場真顔、下巻は六樹園飯盛と現物にある。72の職種があげられている。

## 26. 難波職人歌合 / 黒澤翁満編

[出版地不明]：坐摩宮祝部薑園

嘉永頃刊（1848-1854年頃） 2冊 26cm

展示資料24の「江戸職人歌合」を意識して作られており、大阪の歌人で国学者でもある黒澤翁満によって、大阪を背景として歌50番、100の職種があげられている。

## 参考文献

- ◇ 「日本古典文学大辞典」 日本古典文学大辞典編集委員会編  
岩波書店，1983-1986
- ◇ 「江戸科学古典叢書 6」 恒和出版，1977
- ◇ 「ヴィジュアル史料日本職人史 1-2」 遠藤元男著 雄山閣出版，  
1991
- ◇ 「新日本古典文学大系 61」 岩波書店，1993
- ◇ 「日本の職人」 遠藤元男著 人物往来社，1965



発行日 2005年11月1日

印刷 教育支援センター 印刷業務課

発行所 東海大学付属図書館

〒259-1292 平塚市北金目1117

TEL 0463-58-1211 (代)

<http://www.time.u-tokai.ac.jp/>

